

講義名	中国企業論/地域ビジネス研究(中国)			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

中国経済が改革開放後、驚異的経済成長をしたのはだれでも知っている。そして、その経済成長が、経済の生産活動を担う企業の成長によってもたらされたものであることも確かである。しかし、中国企業の成長についてのわれわれの理解はあまりに貧弱である。中国企業がなぜ急成長できたのか、実際どのように急成長してきたのかを明らかにするのが、この講義のねらいである。本講義はケーススタディを採用したい。「事業は小説より奇なり」というが、本講義を受講すれば、「企業成長の事業は企業成長の理論より奇なり」といいたくなる。本講義を受講することによって、企業成長の理論を読んでもわからない経営実態を知ることができる。本授業は次の中国企業をケーススタディとして取り上げるが、途中、講義する順番が変わりうることもあるかもしれない。

到達目標

- (1) 中国企業の経営実態と中国企業ならではの経営手法を認識し、新しい問題意識を把握できる。
- (2) 中国企業の成長戦略の特徴を認識し、それと同時に課題を理解することができる。
- (3) 中国企業の成長モデルを理解することで、中国ビジネスの「いま」と日本企業との新しい関係を自らの視点でとらえることができる。

提出課題

- 中間課題
- 期末課題

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中における講評と解説の実施

評価の基準

中間課題：40点
 期末課題：40点
 授業へのコミットメント（双方向の質疑応答）20点

履修にあたっての注意・助言他

「遅刻する」、「授業中の出入りをする」、「私語する」、「居眠りをする」と大人の態度と行動を遵守できない学生には、受講を遠慮願う。積極的に質問・発言する学生は、大歓迎する。

教科書

・「使用しない」。

参考図書

その他

授業計画

【対照授業】

1. 選ばれる中国企業のプロセス
2. 通信機器大手のファーウェイ(1)
技術と研究開発重視型のビジネスモデル
3. 通信機器大手のファーウェイ(2)
ユニークな採用・訓練・報酬システム
4. 通信機器大手のファーウェイ(3)
価値創造のシステム
5. 通信機器大手のシャオミ(1)
製造戦略
6. 通信機器大手のシャオミ(2)
イノベーションシステム
7. 通信機器大手のシャオミ(3)
ハイパーチェーンシステム
8. 通信機器大手のシャオミ(4)
ビジネスモデル
9. 家電大手のハイアール(1)
外国技術導入と高起点経営
10. 家電大手のハイアール(2)
競争システムの人事評価の明確
11. 家電大手のハイアール(3)
製品開発戦略
12. EV自動車メーカー(1)
中国におけるEV自動車の生産と開発の現状と中国政府の狙い
13. EV自動車メーカー(2)
EV自動車メーカーの開発戦略
14. EV自動車メーカー(3)
EV用バッテリー開発と充電インフラの整備
15. 中国企業の成長特徴
模倣から創造へ、後発型成長、市場主義型経営

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> A: PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> B: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> C: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習では、事前に教員が指定する範囲を読んで、「ほんとうかな」、「ちょっとおかしいよ」、「それはちがうじゃないか」とマークをつけて、授業中で質問を用意しておこう（2時間）。
 復習では、「なにがわかった?」、「なにがまだわからなかったか」と改めて考え、教員に質問しよう（2時間）。
 上述したような学習目標を達成するためには、予習と復習に必要な4時間を確保してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、本学ディプロマにある「自業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる」とともに、経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できる」を念頭に、内容を構成する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本授業ではオール・ラーニングを重視しているため、教員への質疑と授業中の発言を大いに推奨する。

実務経験の有無及び活用

備考

水・木曜日12時10分から13時
 研究室メールアドレス: Zhi ren_Pan@red.unds.ac.jp